

昭和42年度水稻作実用化除草剤使用基準一覧表

	薬 剤 名	処 理 法	使 用 量 (成分g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
(1) 移 植 栽 培 ・ 本 田	H-642 乳剤 (20%)	休閒田耕起前 雑草処理	15~20	耕起前 30~50日 (マツバイ)	全 土 壤	暖地普通期 栽培地帯 (マツバイ対 象)	・越冬芽からの発生が 揃った頃、マツバイ によくかかるよう均 一に散布する。 ・無漏水に近い水田で は使用をさける。
	PCP-Ca 粒剤 (44%)	移植前および 移植後土壌処 理	132	移植前1~3 日(植代後) 移植後 3~6日	PCP-Na 適用土壌	PCP-Na 適用地帯	・PCP-Na 粒剤に 準ずる
	PCP-Ca+MCP -Ca 粒剤 (30%+1%)	移植後土壌処 理 中耕後土壌処 理	PCP-Ca+ MCP-Ca 90+3	移植後4~7 日(活着後) 才1回中耕後	壤土~埴土 (減水深2cm /日以下)砂 壤土(減水深 1cm/日以下)	北海道を除く 全域 全域	・PAM粒剤に準ずる。
	DMP 粒剤 (1.44%+1.2%+ 1.2%)	移植後湛水土 壌処理	DBN+MCPB +PCP 8.6+3+3.0	移植後 5~10日	DBNに同じ	DBNに同じ (暖地のみ) (PCP規制 地帯除く)	・DBNに同じ
	暖地用K-86 粒剤 (1.7%+0.8%)	移植後土壌処 理	PCP+MCPE 51+2.4~ 68+3.2	移植後 4~6日	壤土~埴土 (減水深2cm /日以下)	暖地の普通期 栽培	・PAMに準ずる。
	THW-45 粒剤 (17.0%+1.2%)	移植後土壌処 理 中耕後土壌処 理	PCP-OH+ 2,4,5-TP 51+3.6	移植後4~7 日および 才1回中耕後	壤土~埴土 (減水深2cm /日以下)	PAM適用地 帯	・PAMに準ずる。
	UC-22463粒剤 (5%)	移植後土壌処 理	30	移植後 5~8日	壤土~埴土 (減水深2~ 3cm/日以下)	全 域	・雑草発生盛期(ノビ エ1.5葉以下)の処 理が最適 ・小苗、軟弱苗のとき は、使用をさける。 ・処理時の深水(5cm 以上)はさける。
	改良MO-338 粒剤 (9%)	土壌処理	27	移植前 1~3日 移植後 2~7日以内 中耕後	全 土 壤	全 域	・MO-338粒剤に 準ずる。
	MGI 粒剤 (5%+1%)	土壌処理	MO-338+ Prometryne 15+3	移植後 5~10日	埴土~壤土 (減水深3cm /日以下)	普通期暖地	・極高温時の使用さけ る。 ・マツバイ多発田さけ る。 ・健苗使用
	P-P-12 粒剤 (1.7%+1.2%)	土壌処理	PCP+DCBN -3 51+3.6	移植後 5~10日 中耕直後 ~3日後	沖積層 壤土 ~埴土(縦渗透 0.5cm/日以下) 腐植質洪積火 山灰土(減水 深4cm/日以下)	DCBN-3より やや広い	・DCBN-3に準ず る。

	薬 剤 名	処 理 法	使 用 量 (成分 g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
移 植 栽 培 ・ 本 田	P・P-10 粒剤 (20%+1%)	土壌処理	PCP+DCBN 60+3	移植後 4～9 日 中耕後	壤土～埴土 (縦渗透 0.5cm/日)	PP地帯	PP地帯
	トリフルリン 乳剤 (47.9%)	畦間土壌処理	10～14	移植後 4～7 日	洪積火山灰、 沖積埴土～ 壤土 (減水深 8 cm /日以下)	平坦部普通 期(カヤツリ ・マツバイ 多発地帯を 除く)	水稻茎葉にかからない ようにする。
	トリフルリン A 粒剤 (35%)	移植後 土壌処理	9～12	移植後 4～7 日 (ノビエ 1.0 葉期まで)	洪積火山灰 沖積埴土 ～壤土 (減水深 8 cm /日以下)	平坦部普通 期(カヤツリ ・マツバイ 多 発地帯を除く)	・均一散布 ・適量使用
	バラコート 液剤 (24%)	耕起前雑草処 理	7.2～9.6	荒起し 1 カ月 前から直前 まで (マツバイ)	全 土 壤	湿田を除く 全域 (マツバイ対 象)	・付近に作物がある場 合は、強風時の散布 をさける。 ・水量が多いときは非 イオン系展着剤加用。
	粒状水中 2.4-D (3.0%)	分けつ中後期 雑草処理 (湛水処理)	9	有効分けつ 終止期から 幼穂形成期 前まで	埴土～砂壤 土 (漏水の大 きい水田は 除く)	暖地の普通 期栽培	・粒状水中 2.4-D に 準ずる。 ・マツバイに対する効 果は余り期待できな い。
	粒状水中 MCP (3%)	分けつ中後期 雑草処理 (湛水処理)	9	有効分けつ 終止期から 幼穂形成期 前まで	埴土～砂壤 土(漏水の 大きい水田 は除く)	北海道を除 く全域	・粒状水中 MCP に 準ずる。 ・マツバイに対する効 果は余り期待できな い。
	SL-661 粒剤 (7.0%+1.2%)	移植後土壌処 理 (兼雑草処 理)	21+36	移植後 4～7 日	壤土～埴土 (減水深 3cm /日以下) 砂壤土 (減水深 1cm /日以下)	中国以西の 普通期栽培	・ノビエ 1.5 葉期以内 の時期に使用。 ・その他は MCP CA に準ずる。
	NC-263 粒剤 (30.0%+0.75% +0.75%)	移植後土壌処 理および中耕 後土壌処理	PCP-Ca+ MCP+DCBN 9.0+2.25+ 2.25	移植後 5～ 8 日および 才 1 回中耕 後	沖積埴土～ 埴土 (減水深 0.5 cm/日以下) 腐植質洪積 火山灰土 (減水深 4cm /日以下)	北海道を除 く全域	・P・P-12 粒剤に 準ずる。
	寒地用 K86 粒剤 (2.0%+0.6%)	中耕後土壌処 理	PCP+MCPE 60+1.8	才 1 回中耕 後	壤土～埴土 (減水深 2cm /日以下)	寒地の PA M 粒剤 適用地帯	・PAM に準ずる。
	TDW(39)-S 粒剤 (13%+1.8%)	植代前土壌処 理 移植前(植代 後)土壌処理 移植後土壌処 理	59+5.9～ 78+7.8 39+3.9 39+3.9	植代前 0～1 日 植代後 0～2 日 移植後 3～6 日	壤土～埴土 (減水深 3cm /日以下)	全 域 普通期栽培	・植代前処理では薬剤 が表層に分布するよ うに混層すること。 ・移植後処理では雑草 発生始期までに処理 する。

	薬 剤 名	処 理 法	使 用 量 (成分g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
移 植 栽 培 ・ 本 田	MCC・MCP 粒剤 A剤1.5%+0.8% B剤2.0%+0.8% C剤2.0%+ 1%	移植後土壌処 理兼雑草処理	MCC+MCP 60+2.4	移植後 7～15日 (ノビエ発生 盛期から2 ～3葉期ま で)	砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下)	全 域	・減水深の少ない地帯で のみ使用。 ・ノビエ3葉期以上の使 用はさける。 ・殺虫剤との併用はD C P Aの場合と同様に 取扱う。
	MO-502粒剤 (1.0%+0.8%+ 6.0%)	土壌処理	MO-500+ MCP+ MO-338+ 3+2.4+18 ～4+3.2+2.4	移植後4～8 (ヒエ1.5L まで)	壤土～埴壤土 (漏水2cm /日以内)	普 通 期 全 域	・E310粒剤に準ずる。
	寒地用 MO-401粒剤 (8%+0.8%)	土壌処理	MO-338+ MCP酸 24+2.4～ 32+3.2	移植後 5～7日 中耕後	壤土～埴土 (減水深1.5cm /日以内)	東 北 北 海 道 普 通 期	・均一散布。 ・雑草のステージの進ま ないうちに散布する。 ・健苗使用。
	暖地用 MO-401粒剤 (6%+0.8%)	土壌処理	MO-338+ MCP酸 18+2.4～ 21+2.8	移植後 5～8日 中耕後	砂壤土～埴土	暖地 普 通 期 早 期	
	I H-613粒剤 (6%+1.3%)	土壌処理	MO-338 +DBN 18+3～ 24+4	移植後 4～7日 中耕後	壤土～埴壤土 (減水深1.5cm /日以内)	普 通 期 全 域	・DBN, MO-338 に準ずる。
	I H-613-P 粒剤 (6%+1%+1%)	土壌処理	MO-338+ DBN+245 TP 18+3+3～ 24+4+4	移植後 5～8日	壤土～埴土 沖積:0.5cm/日 以下の減水 洪積:4.0cm/日 以下の減水	普 通 期 全 域	・DBN, MO, P・P- 12の使用上の注意を まもる。 ・ただし魚毒には安全で ある。
	N I P-Q 粒剤 (6%+0.2%)	土壌処理	N I P+MCP アンモニウム塩 18+0.6～ 24+0.8	移植後 4～8日 中耕後	砂壤土 (減水1cm /日以下) 埴土～壤土 (減水3cm /日以下)	普 通 期 全 域	・ノビエの時期の適期散 布。 ・減水深, 土壌条件をよ く守る。
	H E-314乳剤 (25%)	土壌, 雑草処 理	20～40	移植後 5～10日 (ノビエ2L まで)	壤土～埴土 (減水2cm /日以下)	普 通 期 全 域	・漏水田, マツバイ多発 田を除く。 ・散布後7～6cmの水深 を保つ。 ・茎葉になるべくかから ぬよう散布。
	H E-314粒剤 (10%)	土壌, 雑草処 理	20～40	移植後 5～10日 (雑草の発 芽期から2L 期まで)	砂壤土～埴土 (極端に漏水 の大きいところ を除く)	普 通 期 全 域	・散布後水深6cm保つ。 (約5～7日) ・雑草のステージが進む とともに量を多くする。 ・マツバイ, コナギ多発 田はさける。
	H S-421粒剤 (12%+1%)	土壌処理	HF-314+ MCPエチル 36+3～ 48+4	移植後 5～15日 中耕後	壤土～埴土 (減水深2cm /日以下)	普 通 期 全 域	・散布時3～5cm水深を 守る。 ・均一散布, ノビエ多発 地の散布をさける。

	薬 剤 名	処 理 法	使 用 量 (成分g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
移 植 栽 培 ・ 本 田	SSH-21粒剤 (1.3%+1%)	土壌処理	トリフルラリン +ioxynil 3.9+3~ 5.2+4	移植後 4~8日	洪積火山灰 沖積埴土~ 埴土 (減水深3cm /日以下)	暖 地 普 通 期	・ カヤツリ・マツバイ の多いところはさける。
	MK-122P 粒剤 (1.1.2.5%+ 1.2.5%)	土壌処理	MK-122 +PCP-Na 4.5+5.0	移植後 4~7日 (雑草発生 始期~発生 盛期)	埴土~埴土 (減水深3cm /日以下)	平 坦 部 普 通 期	・ PCP規制地帯はさ ける。
	シメトリン粒剤2.5 (2.5%)	移植後土壌処 理兼雑草処理	7.5~1.0	移植後 5~15日 (ノビエ発 生始期から 3葉期まで)	砂埴土~ 埴土 (極端な漏 水田を除く)	全 域 (北海道は 除く)	・ 小苗、軟弱苗の場合 は、処理時の水深 (5cm以上)はさける。 ・ 使用量は移植後10 日以前では低薬量、 10日以降では高薬 量とする。 ・ マツバイ多発田では 除草効果が劣る。
		生育期雑草処 理	東北7.5~1.0 関東東山 5~7.5	ヒルムシロ増 殖初期 (移植後15 ~25日)	埴土~ 砂埴土	東北および 関東東山地域 (漏水田を除 く) (ヒルムシロ対象)	・ プロメトリン粒剤に 準ずる。
	シメトリン粒剤1.5 (1.5%)	移植後土壌処 理兼雑草処理	4.5~6	移植後 5~8日	砂埴土~ 埴土 (極端な漏 水田を除く)	中国以西 地域	・ シメトリン粒剤2.5 に準ずる。
	プロメトリン・ DBN粒剤 (1.1.5%+1%)	移植後土壌処 理および中耕 後土壌処理	プロメトリン+ DBN 4.5+3	移植後 5~10日 (ノビエ1.5 葉以下) 才1回中耕 後	埴土~埴土 (減水深0.5 cm/日以下)	DBNおよび プロメトリン 適用地帯 (北海道は 除く)	・ DBN、プロメトリ ンに準ずる。
	A-1114-P (1.5%+1.5%)	移植後土壌処 理および中耕 後土壌処理	A-1114+ 2.4.5-TP 4.5+4.5	移植後 6~9日 (ノビエ1.5 葉以下) 才1回中耕 後	埴土~埴土 (減水深2cm /日以下)	プロメトリン 適用地帯 (北海道は 除く)	・ プロメトリンに準ず る。
	F-51 粒剤 (A剤 2% B剤 16%)	移植後土壌処 理	8+4	4日~8日	沖積埴土~ 埴土 (減水深2cm /日以下) 洪積火山灰土 (減水深4 ~5cm/日以 下)	北海道を除 く 全 域	・ 減水深の大きい地帯 を除く。 ・ 水稻活着後使用平均 気温20℃ 以下の ときは使用しない。
	2,4-D・ ATA水溶剤 (60%+28%)	生育後期雑草 処理	2,4-D 30 ATA 14	水稻出穂後 15日以上経 過した時期 で、落水直 前または直 後の越冬芽 形成前 (ヒルムシロ)	全 土 壤	北海道のみ (ヒルムシ ロ対象)	・ 無圧式散布機で噴口 を下げて稲体にもか からないよう畦間に散 布する。 ・ 落水直後の場合は、 土壌表面が乾燥しな いよう散布する。 ・ 粒剤を使用した方が 水稻に安全。

	薬 剤 名	処 理 法	使 用 量 (成分g/a)	処理時期	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
移植栽培・本田	2,4-D・ATA (カリアートル) 水溶剤 (60%+28%)	稲刈取後 雑草処理	2,4-D 12~18 ATA 5.6~8.6	刈取後 25日頃 (マツバイ)	全 土 壤	暖 地 (マツバイ対象)	・処理後多雨があつたときは再処理すれば効果が大い。
	2,4-D・ATA 粒剤 (10%+5%)	生育後期雑草 処理	2,4-D+ ATA 30+15	水稻出穂後 10日以上 経過した時期 (8月下旬~ 9月上旬) の越冬芽形 成前 (ヒルムシロ)	全 土 壤	北 海 道 (ヒルムシロ 対象)	・1処理時の水深を1 ~3cm, 止水をして 散布する。
	ACP-199 粒剤 (4.2%+1.8% +0.8%)	移植後湛水土 壤処理	ACP-296 + ACP-296 類塩 + MCPエチル 1.8+2.4~ 2.4+3.2	移植後 4~6日	砂壤土を除く 全土壌 減水深少ない 地帯	東海以西	・ノビエは8葉期前, 多年生雑草の少ない ところで使用する。
	PCP・MO化成 1号 (1.5%+0.5%)	植代前後 土壌処理	PCP-Na+ MO-338 60~20	植代前後 2~3日	砂土を除く全 土壌	普通期栽培 全 域	・PCP化成に準ずる。 ・早期栽培を除く。
(2) 稚苗移植栽培	N I P 粒剤 (7%)	植 植付前土 壤処理	21~25	植付前 1~3日	砂壤土~ 埴土	全 域	・減水深の著しいところ はさける。 ・植付後3cm以上の深 水はさける。 ・植付後処理は活着立 上りをみきわめて散 布する。その他移植 栽培NIP粒剤に準 ずる。
		紙 植付後土 壤処理	21~25	植付後 4~6日	砂壤土~ 埴土	全 域	
		苗 播機 土壌処理	21	移植後 4~7日	壤土~埴土 (洪積~沖 積)	暖 地 普 通 期	
	HE-314粒剤 (10%)	土壌、雑草処 理	40~50	移植後 5~10日目	砂壤土~ 埴壤土	暖地普通期 稚苗栽培	・散布時および散布後 は深水(5cm位)を 維持する。 ・漏水の著しいところ は、使用しない。
	改良MO-338 粒剤 (9%)	土壌処理	21~28	移植後 5~8日目	砂壤土~ 埴土	全 域 稚 苗 栽 培	・植付状態を正常とす る。 ・その他MO-338 (CNP)に準ずる。
(3) 苗代畑苗代	MCC 水和剤 (40%)	播種後~生育 初期の土壌処 理兼雑草処理	(保温材使用) 20~30 (保温材無使 用)30~40	播種直後~ 稲出芽期	全 土 壤	全 域	・水稻の一葉展開期以 後の使用はさける。 ・有機燐剤, NAC剤 などの殺虫剤との混 併用はDCPAに同じ。

	薬 剤 名	処 理 名	使 用 量 (成分 g/a)	処理時期	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
(4) 湛水直播栽培	CNP(MO-388) 乳剤 (20%)	土壌処理	25~30	播種前 3~5日	全 土 壌	全 域	・NIP乳剤に準ずる。
(5) 乾田直播栽培	MCC 水和剤 (40%)	播種後~生育 初期の土壌処 理兼雑草処理	(播種後) 40~50 (生育初期) 30~40	播種直後 ~稲出芽期	全 土 壌	全 域	・水稻の一葉展開期以 後の使用はさける。 ・有機燐剤・NAC剤 等の殺虫剤との混併 用はDCPAに同じ。

植 調 協 会 だ よ り

東南アジア5カ国の生育調節剤(除草剤)

利用状況調査団の派遣について

財団法人 日本植物調節剤研究協会では、昭和43年3月28日より4月23日にわたり、台湾・フィリッピン・マレーシア・タイ・韓国における生育調節剤(除草剤)の行政、研究組織、利用状況、市場、委託等を調査するため、調査団を派遣する。

調査団の構成員は下記のとおり

記

調査団の構成員(順不同)

団長 行方直夫(保土谷化学工業)

団員 桜庭庄一(三菱化成工業)

〃 配野博之(三井化学工業)

〃 大橋正親(石原産業)

〃 渡辺誠二(大日本インキ化学工業)

〃 先本礼次(日本曹達)

〃 後藤宗玄(東亜農薬)

〃 水谷 信(イハラ農薬)

〃 吉沢長人(日本植物調節剤研究協会)

人 事 移 動

任 植調研究所 技 師 泉 宏一(2月)

任 植調事務局 技 師 楠瀬 健(3月)
技術部特作係

任 植調事務局 技師補 浅野紘臣(3月)
技術部普通作係

編 集 後 記

如月に発行する予定であった植調第9号は、ようやく弥生になって日のめを見ることができました。発刊が大変遅れたことを、読者の皆様に対し、深くお詫びします。

第1巻は、第10号まで発行する予定でしたが、とうとう、第9号で終わりを告げ、残りの材料は昭和43年度に持ちこすことになりました。次号は、第2巻第1号として装いを新たに、装幀もスマートな雑誌として皆様の前に出現いたしますので、よろしくお願いします。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都港区芝西久保桜川町26番地

電話 東京(03)502-4188~9番

昭和43年3月発行 植調第9号 ¥50(送料35)

編集人 日本植物調節剤研究協会会長 河 田 党

発行人 植調編集印刷事務所 田 口 宏

東京都豊島区池袋7丁目2040番地

発行所 植調編集印刷事務所

電話 (986) 1063番